

シリーズ記念碑探訪 25

治水萬代
南外築堤記念碑

雄物川中流左岸改修事業

由

来

この河川は天明2年、毎年相次ぐ水害に困り果てた神宮寺村と楢岡村が、水流の疎通をはかり新川として掘ったものである。

しかも、その後も洪水氾濫は続き、田畑は数日に及ぶ冠水滞水によって、生産皆無の事もあり、三年一作という程の常習水害にみまわれてきた遊水地帯だった。これに対して村と住民は、早くからこの状況を国や県に訴え続けてきた。

昭和49年、国に予算取得の陳情をし、翌昭和50年遂に建設省は、雄物川中流改修の左岸築堤工事として、予算を措置し360メートルの着工に踏みきった。

そして、関係者はこの機を失せず、堤防全線の早期完工の促進、又、この地域の基盤整備事業を計画し、併行事業として実施することとした。

昭和53年春、全延長3,024メートルの大堤防が、土地改良工事の竣工と同時に完成した。

この堤防に守られた田園は100ヘクタールの美田と変貌し、年々村内一の豊饒と、良質米の産出を誇っている。



▲記念碑「治水萬代」

農魂の勝利である。私たちは、心から関係各方面に対し、深甚な感謝の念を捧げ、ここに記念碑を建立し「治水萬代」と刻み、碑文を撰んで記録し、後世に伝えるものである。

昭和54年11月10日 建立

碑文

治水萬代

前内閣総理大臣 福田 赳 夫 書

— 参考文献 —
・碑文は語る



▲現在の堤防の様子